

中対馬未来づくりアクションプラン 計 画 書

平成 30 年 3 月

中対馬未来づくりアクションプラン策定委員会
対馬市 中対馬振興部

目 次

はじめに.....	i
中対馬未来づくりアクションプラン策定の経緯.....	i
1 未来づくりの背景と中対馬の現況.....	1
1-1 中対馬未来づくりアクションプランの位置づけ.....	1
1-2 対馬市と中対馬の現況特性.....	2
1-2-1 位置・地勢・時間距離.....	2
1-2-2 人口・世帯数の推移.....	3
1-2-3 産業と観光の実態.....	4
1-3 中対馬の地域資源.....	9
コラム) 女子の島旅に関するインターネットアンケート調査.....	13
2 基本方針.....	17
2-1 中対馬の課題の整理.....	17
2-1-1 中対馬の位置づけ.....	17
2-1-2 対馬をとりまく環境の整理.....	18
2-1-3 中対馬の課題.....	20
2-2 新たな価値創造のための基本方針.....	22
2-3 未来づくりの基本的な考え方.....	23
2-4 未来づくりの展望.....	23
3 全体構想.....	25
3-1 導入機能・施設の検討.....	25
3-2 全体構想図.....	27
3-2-1 エリア別の整備テーマ.....	27
3-2-2 エリア別のゾーニング全体構想図(エリアイメージ).....	27
3-2-3 エリア別のゾーニング.....	29

4	個別事業	48
4-1	個別事業の基本的な考え方	48
4-2	個別事業一覧	49
4-3	個別事業の整備イメージ	56
4-3-1	整備テーマ別の分類	56
4-3-2	個別事業の進め方のイメージ	58
4-3-3	個別事業の詳細	59
	整備テーマ①「中対馬の中心拠点関連整備」	60
	整備テーマ②「周遊アクティビティ関連整備」	74
	整備テーマ③「アクティビティを支援する周辺拠点関連整備」	88
	整備テーマ④「浅茅湾の魅力向上に向けた整備」	106
	整備テーマ⑤「低未利用資源を活用した整備」	112
	整備テーマ⑥「中対馬の“更に未来”を目指す整備」	124
	整備テーマ⑦「中対馬全域で共通して実施する整備」	130
5	事業計画	136
5-1	整備スケジュール	136
5-2	事業化に向けた役割分担	138
5-2-1	地域住民の役割	138
5-2-2	事業者・各種関連団体等の役割	139
5-2-3	行政の役割	139
5-2-4	各主体の連携イメージ	140
5-3	補助事業等の活用	141
5-4	利活用に関連する手続き	141
5-4-1	旧小学校を利活用する場合の手続き	141
5-4-2	空き家を利活用する場合の手続き	144
5-4-3	空き家や遊休施設等を宿泊の用途に転用する場合の手続き	146
5-4-4	農地を転用する場合の手続き	149
5-4-5	漁港施設を利活用する場合の手続き	151
5-5	今後の課題	153
	中対馬未来づくりアクションプラン<資料編>	別冊

はじめに

中対馬未来づくりアクションプラン策定の経緯

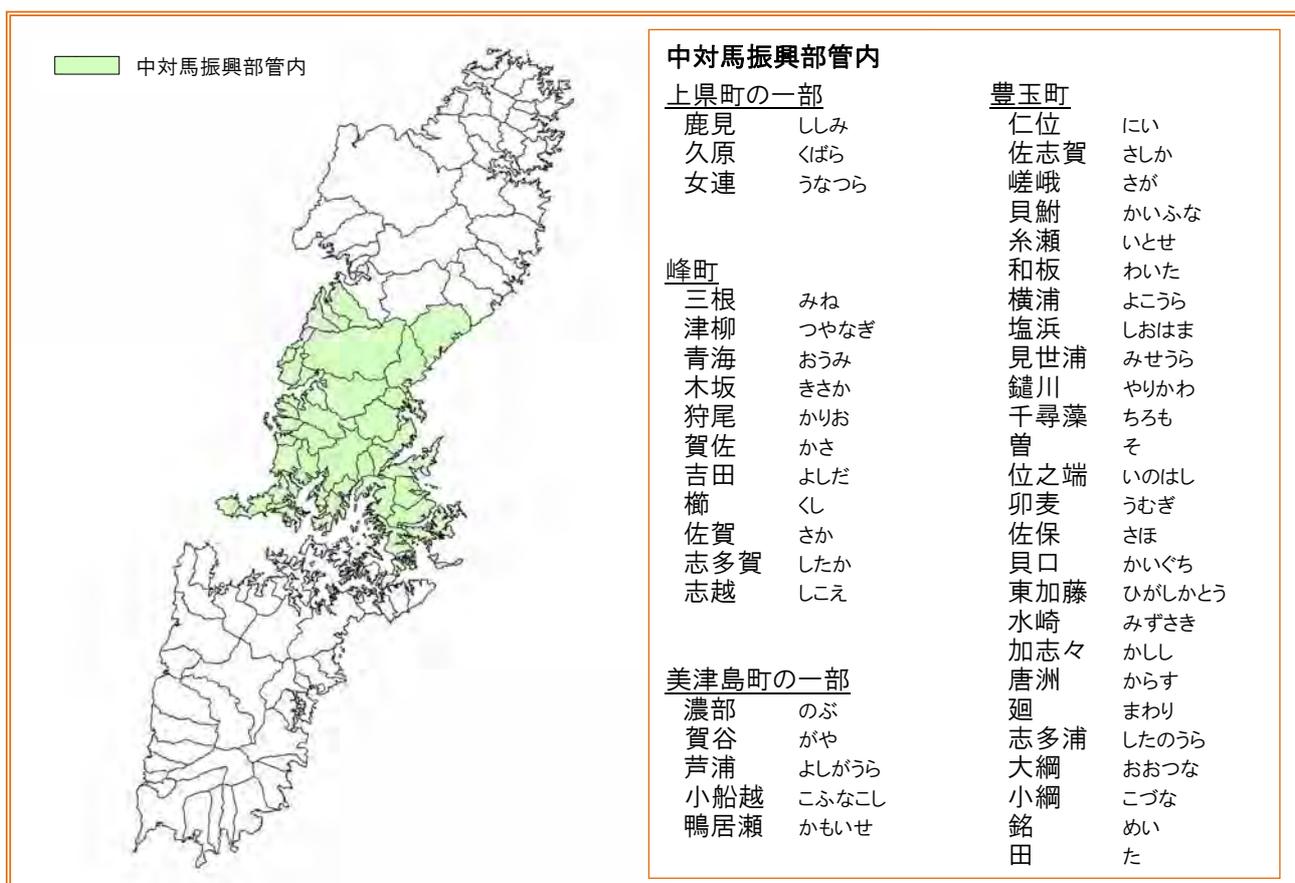
対馬の中央に位置する中対馬は、日本でも有数のリアス式海岸として知られる浅茅湾、その浅茅湾を 360 度見渡せる烏帽子岳展望所や、古くから竜宮伝説の残る和多都美神社等、多くの観光客が訪れる地区です。

一方、対馬の玄関口である上対馬・下対馬と比較し、宿泊施設の整備が遅れている等の課題もあり、観光客にとっては単なる通過点となっていることも否めません。

こういった現状を踏まえ、中対馬の振興、そして将来の対馬全体の発展を考慮し、中対馬を重要な地区と位置づけ、観光分野に限らず、農林水産業・商業等あらゆる分野において好循環をもたらす環境整備が必要です。

中対馬未来づくりアクションプランは、地域住民や事業者、その他関係者との策定委員会等の協同作業により、中対馬の振興を目的とした整備イメージをランドデザインとして策定しました。

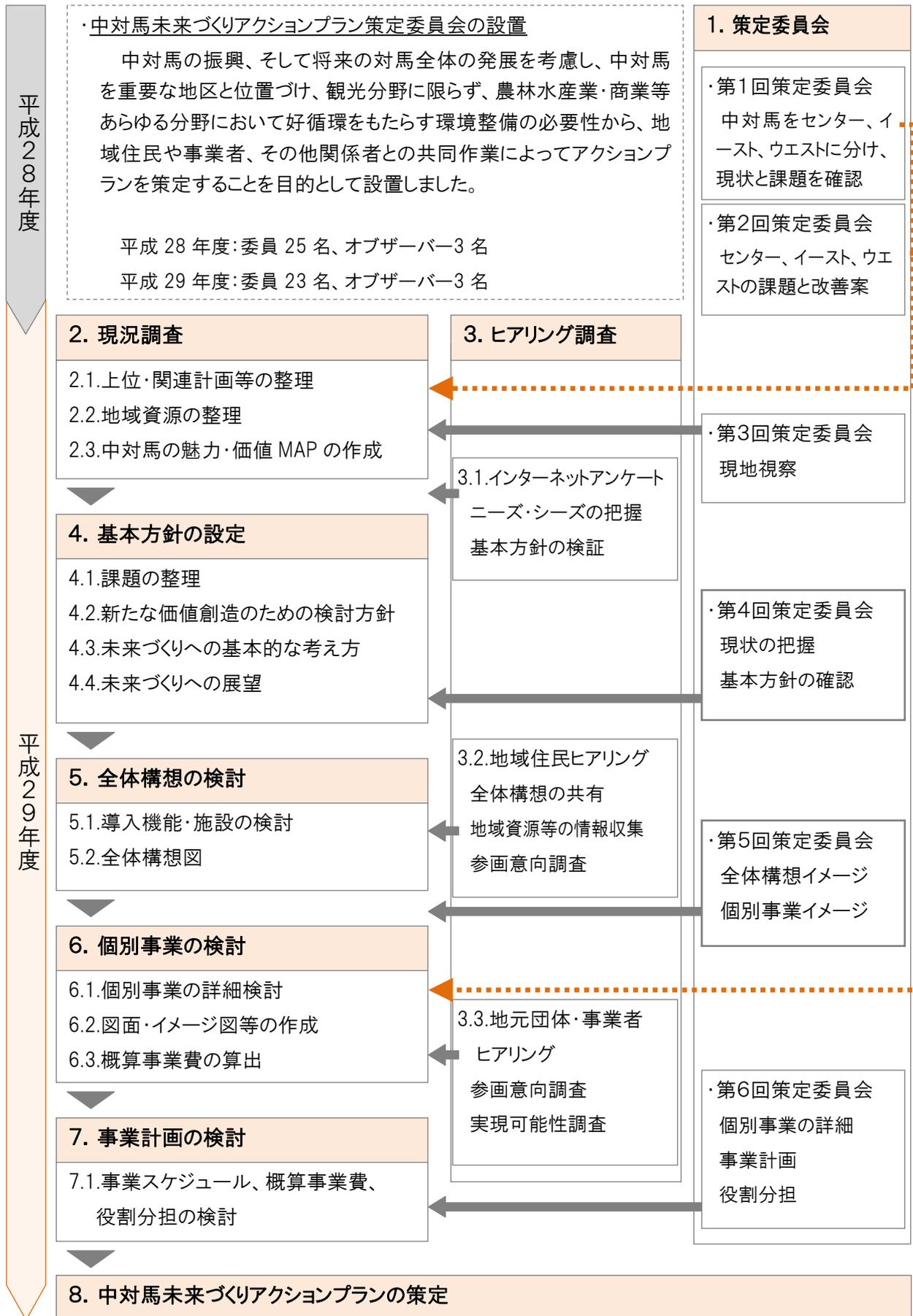
なお、中対馬未来づくりアクションプランとは、中対馬の振興に向けた各種整備を中心とした基本計画であり、策定にあたっては、地域資源や観光・産業の実態から浮かび上がる課題を踏まえた上で、新たな価値創造のための重要なターゲットと考えられる「女子」に着目し、「リトリートとアクティビティ※」の創出による観光誘客をきっかけとした活性化・地域振興を目指すことを前提としています。



※「リトリート」とは、「Re(再び)-treat(整える)=心と身体を整えなおす」ことで、日常のストレスのない環境でゆっくりと過ごし、自然との調和のなかで心身ともにリフレッシュすることを意味します。

「アクティビティ」とは、活動・活気・身体を使っでの遊びのことで、ここでは旅先での遊びを意味します。

■ 中対馬未来づくりアクションプランの策定フロー



■ 中対馬未来づくりアクションプラン策定までの過程

平成 29 年	1 月 10 日	中対馬未来づくりアクションプラン策定委員会設置要綱を公布・施行	
	2 月 22 日	第1回中対馬未来づくりアクションプラン策定委員会を開催 中対馬を大きく3つのエリア(センター、イースト、ウエスト)に分け、現状と課題について、ワークショップ形式で意見交換を実施	
	3 月 22 日	第2回中対馬未来づくりアクションプラン策定委員会を開催 第1回に引き続き、3つのエリアについて議論を深め、各エリアのキャッチコピーを検討	
	8 月 10 日	第3回中対馬未来づくりアクションプラン策定委員会を開催 中対馬の主要な地域資源について、渡海船とバスを利用して現地視察を実施	
	9 月 4 日	インターネットアンケートを実施 3年以内に国内の離島及び対馬に旅行経験のある女性を対象として、離島やリゾートとアクティビティのニーズ、中対馬の主要な地域資源の印象、離島や対馬への移住の意向等について調査を実施(412 サンプル)	
	9 月 26 日	第4回中対馬未来づくりアクションプラン策定委員会を開催 中対馬の地域資源調査やインターネットアンケート結果を報告し、本計画で目指す基本方針を共有	
	10 月 26 日	地域住民ヒアリングを実施(2地区) 中対馬の地域住民を対象に、地域資源情報の収集や地域からの要望、今後の連携のあり方等についてヒアリングを実施(東部中学校区・西部中学校区、豊玉中学校区)	
	10 月 27 日	地域住民ヒアリングを実施(1地区) 中対馬の地域住民を対象に、地域資源情報の収集や地域からの要望、今後の連携のあり方等についてヒアリングを実施(浅海中学校区)	
	12 月 1 日	第5回中対馬未来づくりアクションプラン策定委員会を開催 これまでの委員会での意見や地域住民ヒアリングの結果を踏まえ、中対馬全体の構想図と個別事業の実施イメージを共有	
	12 月 18 日	事業者ヒアリングを実施 中対馬の各産業分野の代表者を対象に、全体構想図と個別事業を実現化するための連携のあり方や要望等についてヒアリングを実施	
	平成 30 年	3 月 6 日	第6回中対馬未来づくりアクションプラン策定委員会を開催 これまでの検討過程を踏まえて整理した中対馬未来づくりアクションプランの計画書と個別事業のあり方について共有
		3 月 末	中対馬未来づくりアクションプランの策定

1 未来づくりの背景と中対馬の現況

未来づくりの背景である、対馬市をとりまく 国や県の動向 と 対馬市 及び 中対馬の現況特性を整理

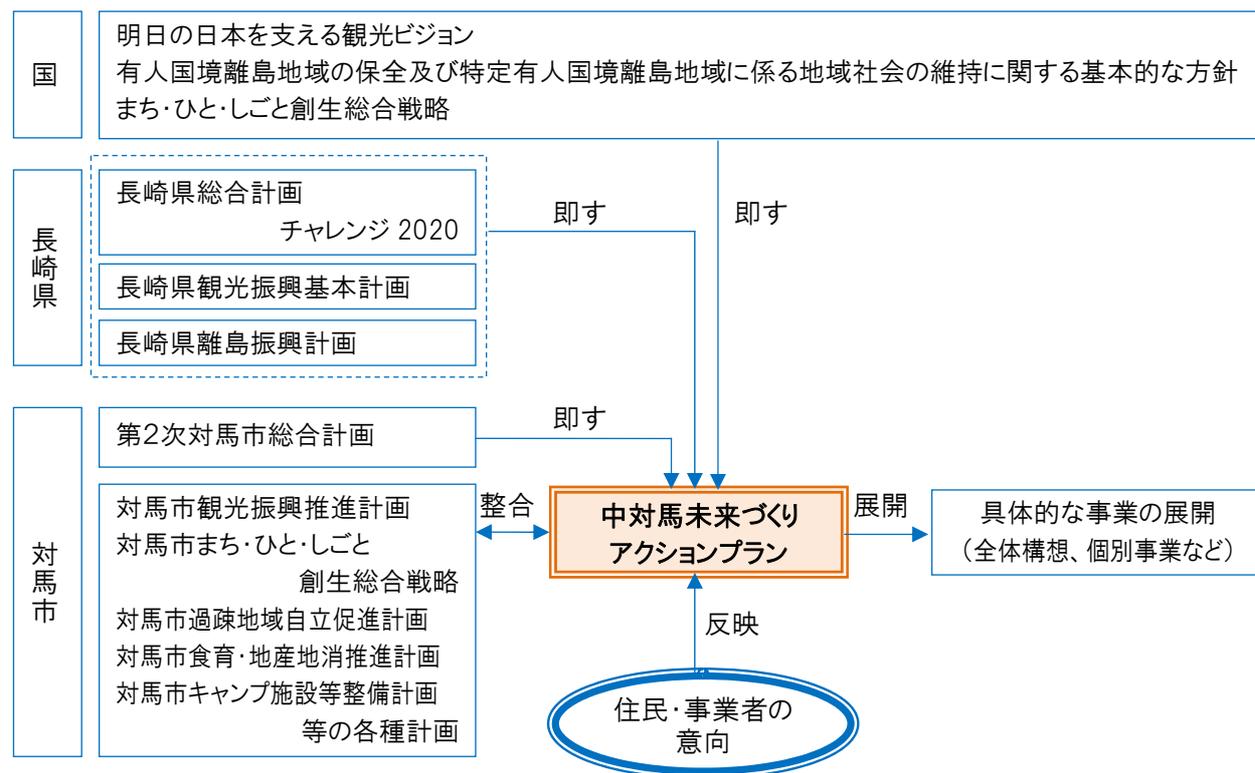
1-1 中対馬未来づくりアクションプランの位置づけ

中対馬の未来づくりは、国や県、市における上位・関連計画※を踏まえて実施するものです。

具体的には、有人国境離島法に基づき制定された「有人国境離島地域の保全及び特定有人国境離島地域に係る地域社会の維持に関する基本的な方針」をはじめとして、「長崎県観光振興基本計画」や「第2次対馬市総合計画」といった上位計画に準拠しながら、「対馬市観光振興推進計画」や「対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略」等の関連する諸計画との整合性を図ります。

また、地域の住民や事業者等の意向を聞き取り協同することで、地域の実状や要望等を反映させ、中対馬の未来を見据えた具体的な事業の展開につなげるものです。

■上位・関連計画における中対馬未来づくりアクションプランの位置づけ



※「上位・関連計画」

各計画の概要及び本計画に関連する内容については、資料編(P.1～23)をご覧ください。

1-2 対馬市と中対馬の現況特性

1-2-1 位置・地勢・時間距離

本市は九州の最北端に位置し、日本で3番目に大きな島であるとともに、韓国に一番近い島です。

長崎市内までは171km、福岡市内までは138kmであることに対し、韓国の釜山までは49.5kmの近さにある国境の島となっています。

全島の89%が山林で占められ、島の中央部に位置する浅茅湾は、大小幾つもの入り江と島々が複雑に入り組んだリアス式海岸で壱岐対馬国定公園に指定されています。

なお、中対馬には客船が就航する港がなく、厳原港からは15～35km圏内、比田勝港からは20～40km圏内となっており、上対馬・下対馬の通過点となっています。



■ 対馬市及び中対馬の位置
 上図) 対馬市の位置
 左図) 中対馬への交通体系図(時間距離)

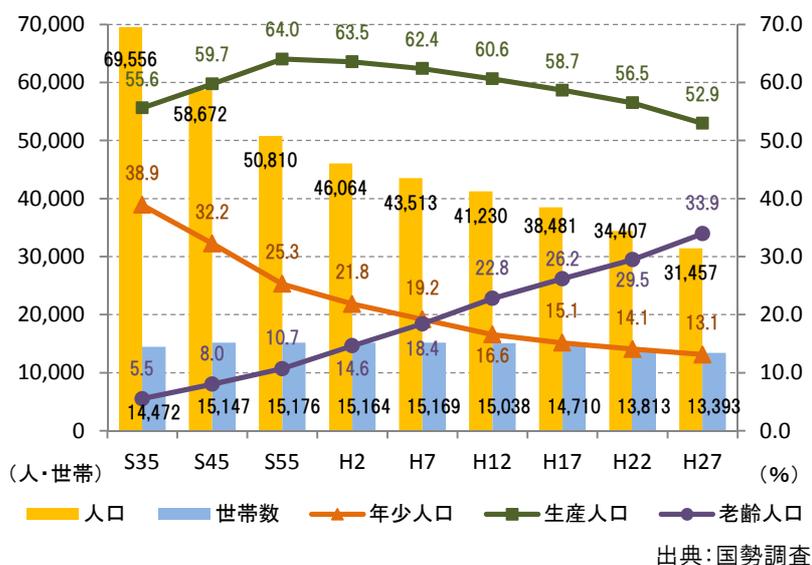
1-2-2 人口・世帯数の推移

本市の総人口は、昭和 35 年をピークに減少の一途をたどっています。平成 27 年国勢調査時には 31,457 人となり、昭和 35 年と比較すると半分以下に減少しています。

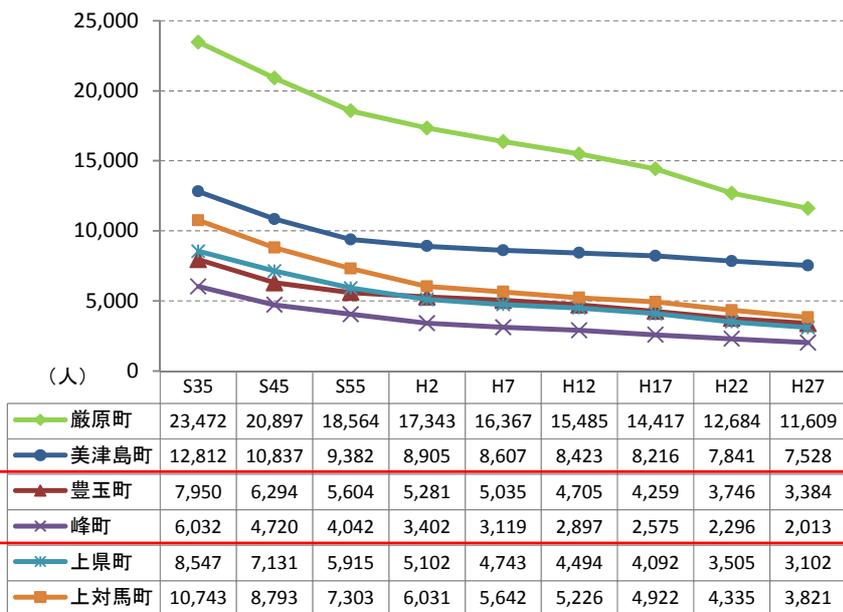
また、世帯数は、平成 12 年から緩やかに減少していることから平均世帯人員も減少を続けており、核家族化が進行している状況です。

年齢区分別人口の状況をみると、年少人口(15 歳未満)は昭和 35 年以降減少が続き、生産人口(15 歳から 64 歳まで)は昭和 55 年をピークに年々減少しています。高齢人口(65 歳以上)については、昭和 35 年以降増加し続けており、少子高齢化が急速に進展している状況です。

■ 対馬市の人口及び世帯数と年齢構成別人口の推移



■ 対馬市の町別人口の推移



中対馬の
主要地区

- 対馬市全域で人口減少と少子高齢化が進行
- 平均世帯人員数も減少し、核家族化が進行

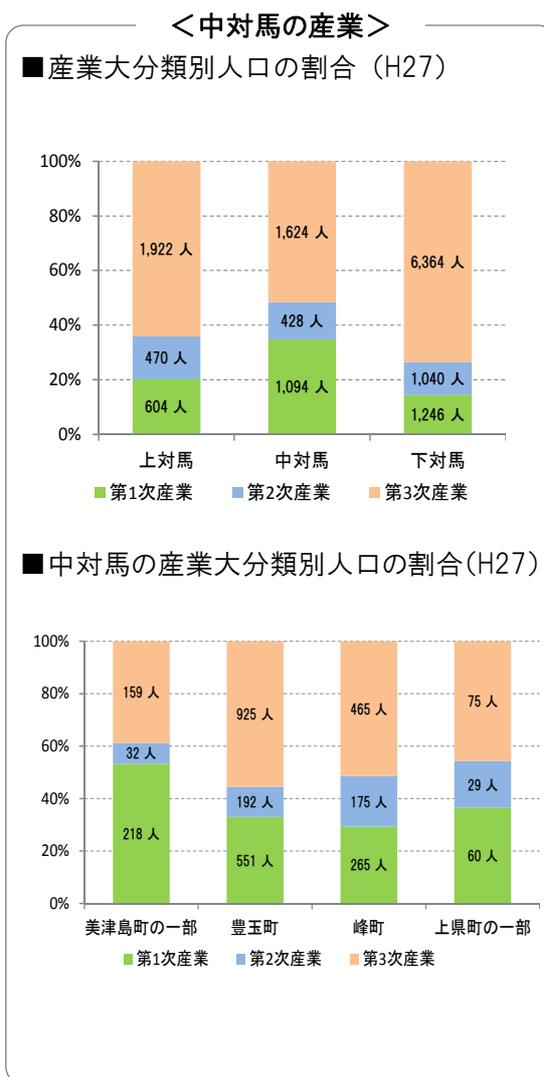
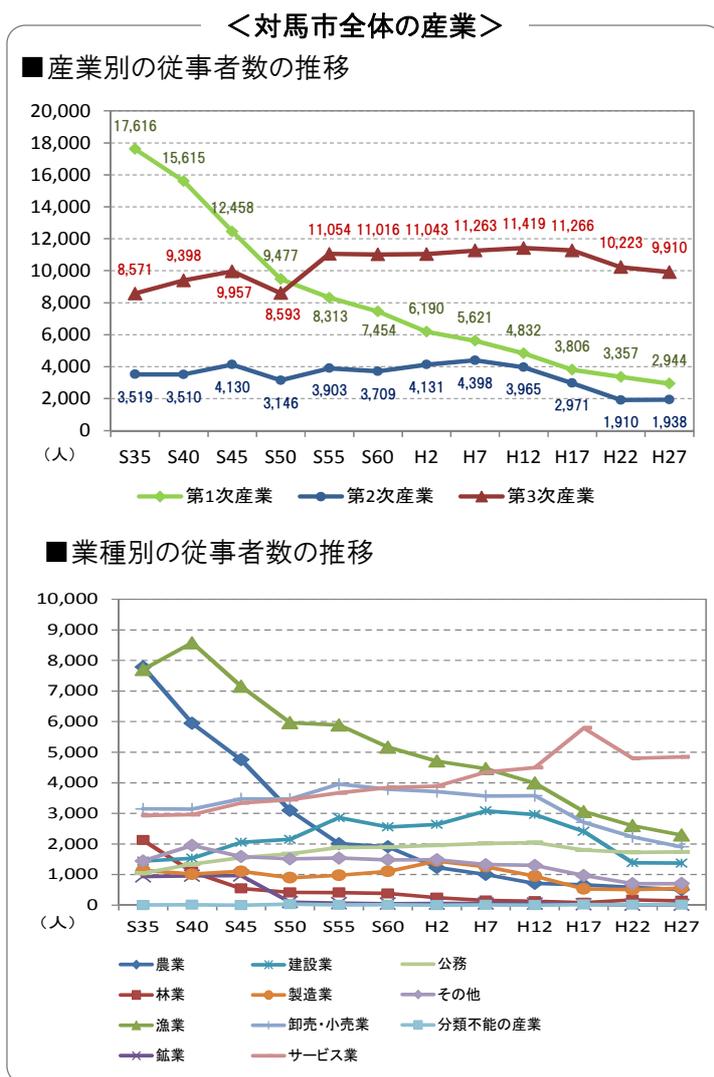
1-2-3 産業と観光の実態

(1) 産業分類別人口の状況

本市の産業大分類別就業人口は、サービス業等の第3次産業をみると、昭和55年以降ほぼ横ばいですが、本市の主要な産業である漁業等の第1次産業は、昭和35年の17,616人から平成27年の2,944人と減少が著しい状況です。

また、第2次産業においても平成7年までは横ばいであったものの、平成12年から平成22年にかけて減少に転じています。

なお、第3次産業については概ね横ばいで推移していましたが、平成22年以降は減少傾向が見られます。



出典：国勢調査

＜対馬市全体＞

- ・ 第1次産業の減少が著しく、第2次産業は横ばいからやや減少傾向
- ・ 第3次産業は概ね横ばいだが、近年はやや減少傾向

＜中対馬＞

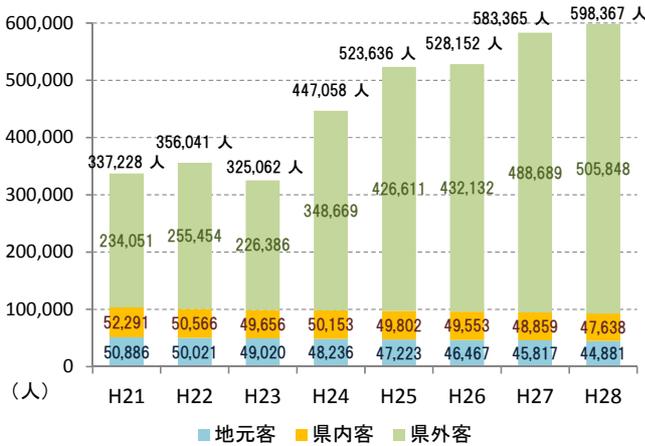
- ・ 上,下対馬に比べ、中対馬は第3次産業従事者の割合が少ない
- ・ 豊玉町は第3次産業従事者の割合が高く、美津島町（一部）は第1次産業従事者の割合が高い

(2)観光をとりまく状況

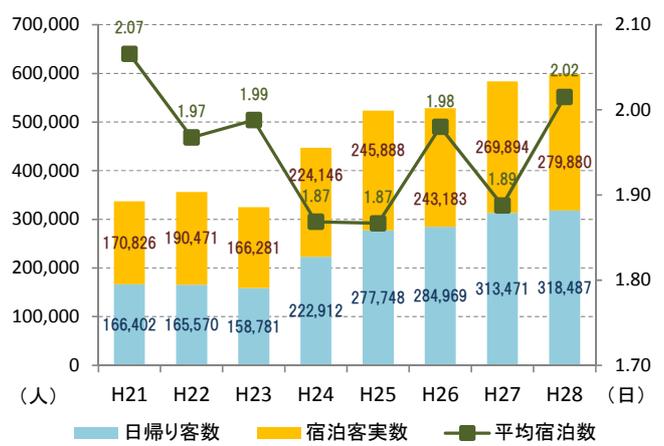
本市における観光入込客数は、平成 21 年の 33.7 万人に対し、平成 28 年には 59.8 万人になっており、約 1.8 倍に増加しています。平成 28 年は、釜山ー比田勝航路の増便や船舶の大型化などもあって韓国人観光客が引き続き大幅に伸びたことから、観光客数の予測を超えて、日帰り客、宿泊客ともに過去最高を更新しました。

平均宿泊数をみると、平成 21 年の 2.07 日をピークに概ね 2.0 日未満(1.89 から 1.99 日)で推移していましたが、平成 28 年は 2.02 日に増加しました。

■観光客の内訳(日帰り客+宿泊客)



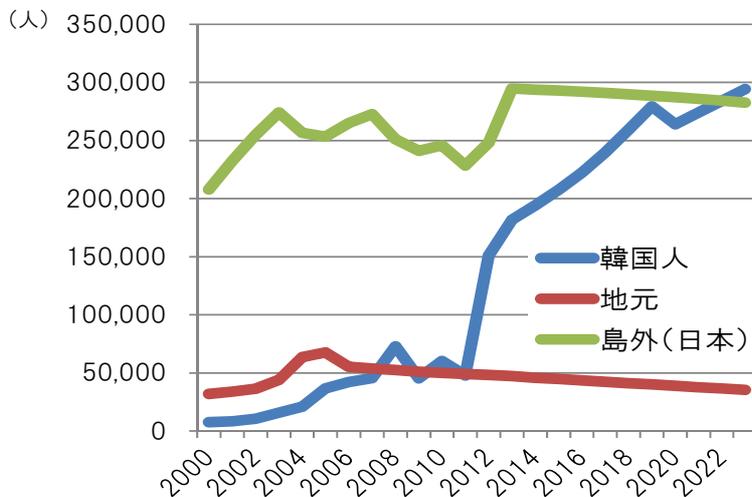
■日帰り及び宿泊観光客数と平均宿泊数の推移



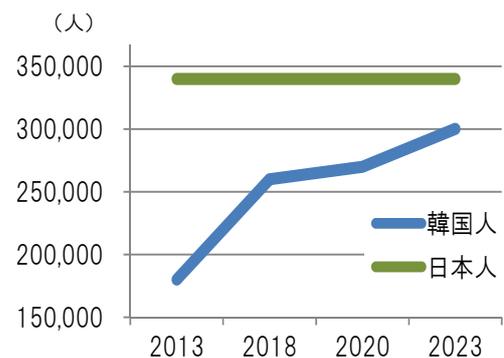
出典:長崎県統計調査

対馬への観光客数の予測では、韓国人は増加を見込んでいますが、日本人は減少することが予測されています。観光客数の目標値においては、韓国人は増加を目標にしているのに対し、日本人は減少を食い止めて横ばいを目指すことを目標としています。

■対馬への観光客数の予測



■対馬への観光客数の目標値



出典:第 2 回対馬交流人口拡大プロジェクト推進会議(平成 27 年度)

韓国からの観光客は、平成29年に過去最多の35.6万人を記録しましたが、更に釜山と比田勝を結ぶ定期航路に韓国船が新規参入するなど、今後も増加が見込まれる状況です。

対馬の韓国客 最多35万6000人



韓国入観光客数は、1年間の韓国―対馬航路の利用者数(入国者数)を集計。対馬北部にあり、朝鮮半島に近い比田勝港からの入国が昨年は72%(約25万7千人)を占め、南部の厳原港は28%(約9万9千人)だった。同航路は17年末時点で日韓の3社が計4隻の船(定員計1,274人)で運航。このうち韓国の1社は、ジェットfoil(定員200人)に加え、16年10月から高速船(同440人)を投入。韓国のもう1社も従来の高速船(同443人)と併せ、16年12月から17年6月ま

対馬市は12日、2017年の韓国入観光客数が過去最多の35万6316人(前年比97%増)に上ったと発表した。6年連続で過去最多を更新しており、約26万人だった前年と比べ10万人近く増えている。市は「対馬が『安・近・短』の外国旅行先として韓国で人気となっているほか、高速船の大型化も要因」としている。

17年分、6年連続更新

高速船大型化など要因



多くの韓国入観光客でにぎわう比田勝港国際ターミナル
→対馬市上対馬町(2017年12月3日撮影)

の間は大型高速船(同8025人)も運航した。市観光商工課は「今年、船会社の新規参入が見込まれている。朝鮮半島情勢の落ち着きしだいでは、さらなる上積みも期待できる」とみている。同航路をめぐっては、2011年に日韓の船会社が相次いで参入して以降、韓国入観光客が急増している。釜山―比田勝間の所要時間は70〜90分で、片道の運賃は7500〜9千円程度。(緒方秀一郎)

出典:長崎新聞(平成30年1月13日)

釜山―比田勝 定期航路



釜山―比田勝航路に新規参入した韓日高速海運の「オーロラ号」
→対馬市上対馬町、比田勝港

韓国船が新規参入

対馬訪問客増加に期待

韓国・釜山市と対馬北部の比田勝港間を結ぶ定期航路に、韓国の船会社「韓日高速海運」(釜山市、鞠尚佑代表理事)が2日から新規参入し、運航を始めた。釜山―比田勝航路の参入は4社目で、対馬への韓国入観光客数がさらに増えることが見込まれる。

対馬市や同社などによると、釜山から比田勝までの航路は約72キロで、比田勝は韓国から最も近い日本の玄関口。昨年、船便で対馬を訪れた韓国人観光客数は過去最多の約35万6千人で、このうち72%にあたる約25万7千人が比田勝港から入国している。同航路は大亜高速海運(韓国・浦項市)が定期航路として2000年に初めて参入。11年にJR九州高速船(福岡市)、未来高速

(釜山市)が加わり、高速船やジェットfoilによる3社体制で、多い日には1日計6往復してきた。韓日高速海運は双胴型の高速船「オーロラ号」(定員319人)を使い、当面は1日1往復する計画。年間10万人程度の運送を見込んでいる。2日正午すぎ、比田勝に入港した第一便からは111人の韓国入観光客らが下船。同乗していた鞠代表理事は長崎新聞の取材に「自然豊かな対馬を訪れたい韓国人はまだ多い。対馬の宿泊施設数も増えており、十分に受け入れられると判断した。釜山を訪れる日本人観光客の乗船も、もちろん歓迎すること述べた。オーロラ号は釜山―比田勝間を約90分で結び、運賃は片道8万5千円(約8千円)。問い合わせは同社代理店の国際ライン対馬(電0920・86・2008)。(緒方秀一郎)

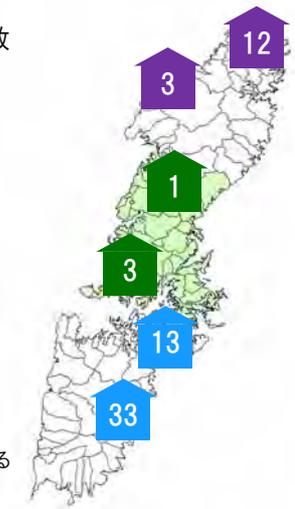
出典:長崎新聞(平成30年2月3日)

近年の観光客の増加に伴い、本市では新たな宿泊施設(ホテル)の整備を進めていますが、町別に件数を見ると、主に厳原に集中している状況です。

宿泊施設が少ないことは、観光入込客数が増加傾向にありながらも宿泊客実数が大きく伸びない原因のひとつであるといえます。

■町別の宿泊施設の件数

上対馬町	12 件
上県町	3 件
峰 町	1 件
豊玉町	3 件
美津島町	13 件
厳原町	33 件
計	65 件

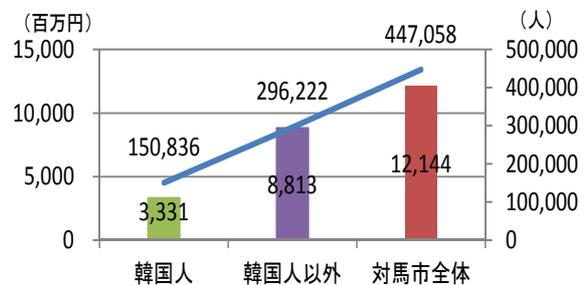


※観光物産協会が紹介している宿泊施設のみの件数

出典: 対馬観光物産協会

このように、近年の対馬は韓国からの観光客が非常に増加している状況ではありますが、島内観光消費額と観光入込客数を比較すると、韓国人観光客は韓国人以外に比べて観光消費額の割合が少ないという現状もあります。

■島内観光消費額と観光入込客数



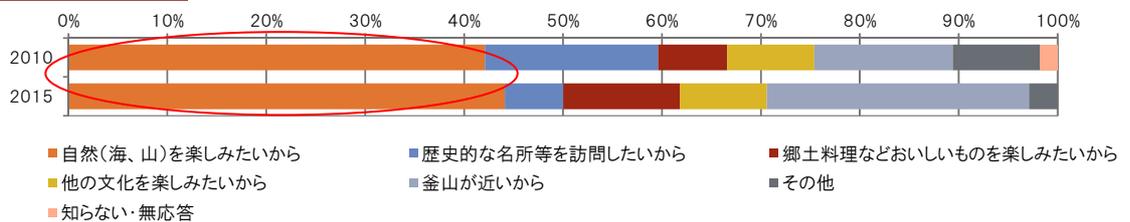
出典: 離島における観光振興策に係る調査(平成 26 年度)

韓国人観光客の観光消費額の動向を把握する上で、対馬に訪れたことのある韓国人(釜山市民)を対象とした再訪意向調査を見てみると、再訪したい理由のうち「自然を楽しむこと」が最も多い割合を占めており、観光消費の機会が少ないことを示しています。

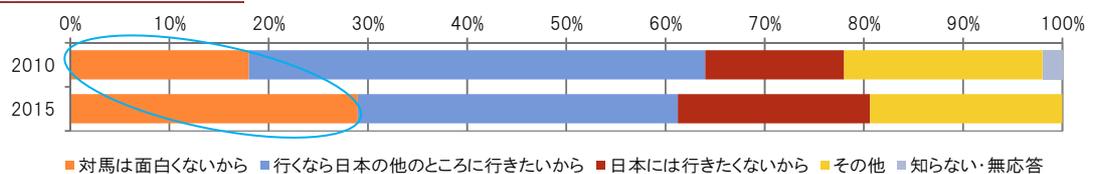
また、再訪したくない理由のうち、「対馬は面白くないから」が増加傾向にあることから、自然を楽しむだけでなく、再訪を促す新たなメニューが必要であると考えられます。

■釜山市民認知度調査

再訪したい理由



再訪したくない理由

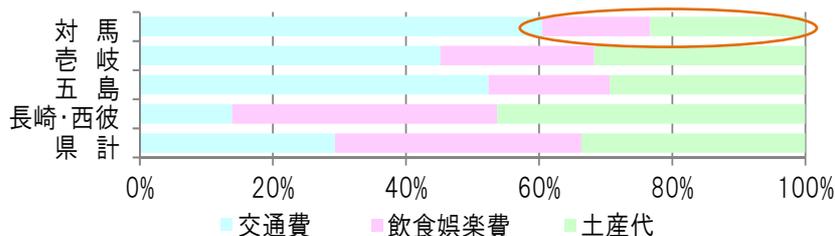


出典: 対馬市観光振興推進計画

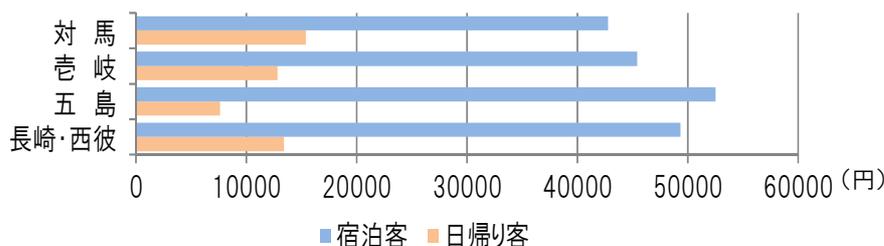
本市の観光消費額を県内の離島(五島、壱岐)や長崎・西彼と比較すると、本市は交通費の割合が高く、飲食娯楽費や土産代の割合が少ない状況となっています。交通費の高さがネックとなって島内での観光消費が伸びにくい現状を示していると言えます。

なお、日帰り客の観光消費額は比較的高いものの、宿泊客の観光消費額は少ない傾向にあります。

■観光消費額の内訳



■日帰り客と宿泊客の一人あたり消費額



出典:長崎県統計調査

- ・韓国からの来訪客の増加も後押しして、観光客数は増加傾向
- ・韓国人観光客は増加しているが、日本人観光客は横ばいもしくはやや減少傾向
- ・宿泊施設が少ないため、観光客数の増加に比べて宿泊客実数は大きく伸びていない状況
- ・また、韓国人観光客の観光消費額は観光客数に比べてかなり少ない
- ・観光消費額を県内の他の離島と比べると、交通費の占める割合が高く、島内経済に結びつきにくい状況

※対馬市及び中対馬の現況についての詳細(下記の項目)は、資料編をご覧ください。

■対馬市の現況特性(資料編 P.24～36)

位置・地勢、気候、人口・世帯数の推移、産業(産業分類別人口、農業、水産業、商工業)、交通体系、買い物動向、観光動向(観光客数、観光消費額、観光客数の予測と目標値、韓国人の再訪意向、県内での観光消費額の比較)

■中対馬の現況特性(資料編 P.37～64)

土地利用、交通体系、産業人口、漁業、地域資源(歴史・文化、観光、祭事・イベント、スポーツ施設・宿泊施設、教育施設)、法適用状況(自然公園地域(国定公園)、その他の法規制)

1-3 中対馬の地域資源

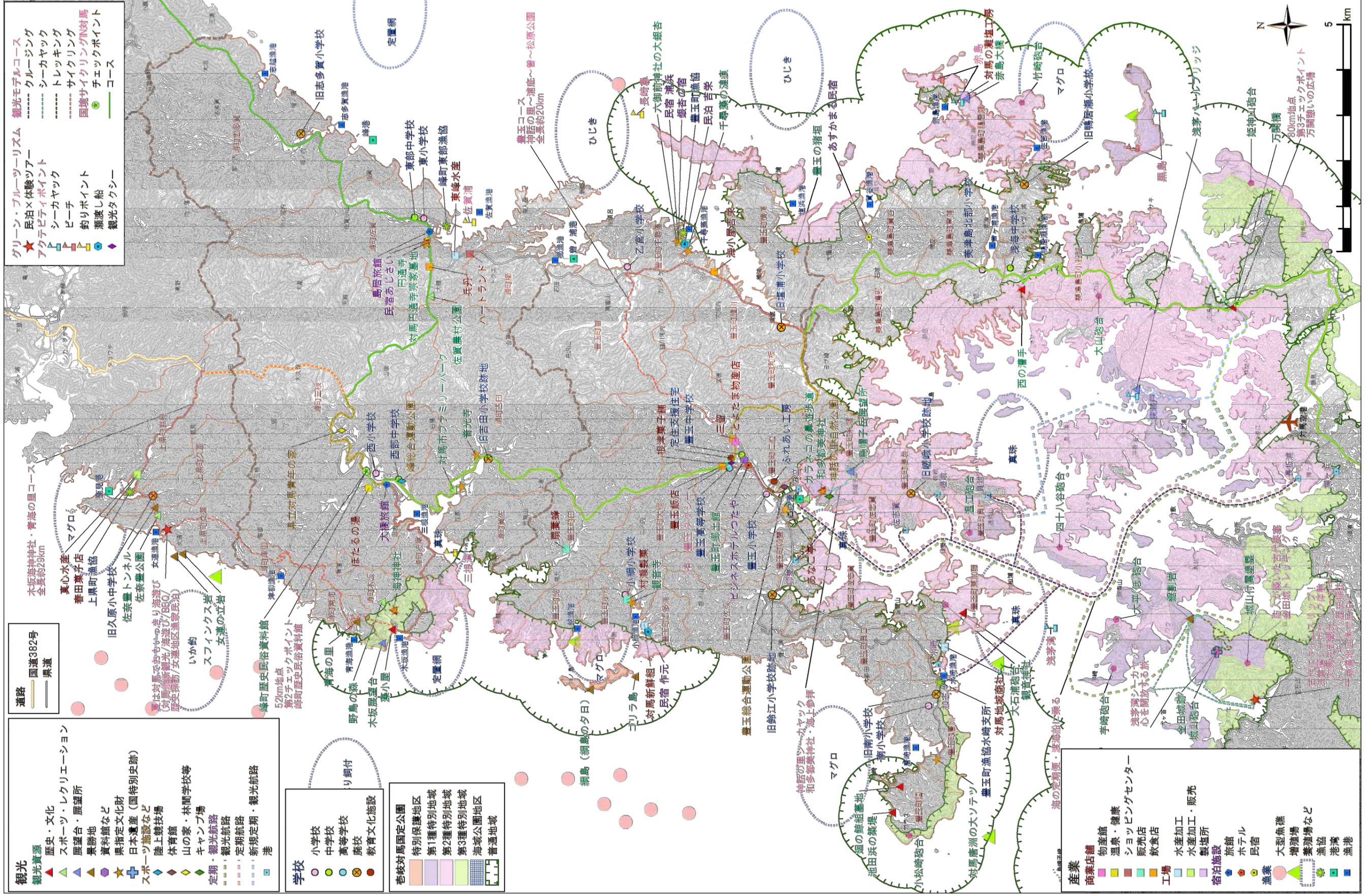
未来づくりを進めるにあたっては、中対馬全域に位置する地域資源を把握し、かつ適切に評価することが重要となります。ここでは、中対馬に位置する様々な地域資源を分類別にとりまとめ、位置図として整理しました。

■地域資源の分類

観 光			
観光資源			
歴史・文化	スポーツ・レクリエーション	展望台・展望所	景勝地
資料館など	日本遺産(国特別史跡)	県指定文化財	対馬要塞(砲台)
スポーツ施設など			
陸上競技場	体育館	山の家・林間学校等	キャンプ場
定期・観光航路			
観光航路	定期航路	港	
グリーン・ブルーツーリズム			
民泊×体験ツアー			
アクティビティポイント			
シーカヤック	ビーチ	釣りポイント	瀬渡し船
観光タクシー			
観光モデルコース			
クルージング	シーカヤック	トレッキング	サイクリング
国境サイクリング IN 対馬			
チェックポイント	コース		
学 校			
高等学校	中学校	小学校	廃校
教育文化施設			
産 業			
商業店舗			
物産館	温泉・健康	ショッピングセンター	販売店
飲食店			
工場			
水産加工	水産加工・販売	製塩所	
宿泊施設			
旅館	ホテル	民宿	
漁業			
大型魚礁	養殖場など	漁協	港湾・漁港
壱岐対馬国定公園			
特別保護地区	第1種特別地域	第2種特別地域	第3種特別地域
海域公園地区	普通地域		

※各地域資源の概要と活用に向けた評価(活用の可能性)については、資料編(P.65~83)をご覧ください。

■中対馬の地域資源(観光・産業及び国定公園区域)



コラム) 女子の島旅に関するインターネットアンケート調査

「中対馬未来づくりアクションプラン」は、新たな価値創造のための重要なターゲットと考えられる「女子」に着目した活性化・地域振興を目指しています。

ここでは、交通や経済等の条件不利地域でもある対馬という離島における女子のニーズやシーズ※を把握することを目的として実施したインターネットアンケート調査結果の概要を整理しました。

※「ニーズ」とは、「必要性」のことで、消費者(ここでは島旅に行く女子)が現在求めているものであり、具体的に顕在化しているものを示します。一方、「シーズ」とは、「種」のことで、地域や企業が有する事業化・製品化の可能性のある資源や技術、ノウハウなどを示します。

マーケティングの場面において、「ニーズ」の把握は情報を細分化・整理して「必要性を満たす思考」、「シーズ」の把握は顕在化していないニーズをつくり出す「新しさを提案する思考」が重要となります。

(1) 調査の目的

近年、女性同士で旅を楽しむ人たちが増加し、「女子旅」という言葉が定着している中、女性同士の旅行プランなどを特集した女子旅専用サイトなども多くみられるようになりました。女性は、旅に「目的」や「テーマ」を持ち、滞在より体験を求めて旅をし、その体験を発信することを好む傾向にあると言われており、SNSの普及も女子旅の人気を後押ししている状況です。

また、女子旅に限らず、地方への旅行では、有名な観光地をまわる“周遊型観光”が少なくなり、1箇所滞りながら静養や体験型をはじめとしたレジャーを楽しむ“滞在型観光”を楽しむ人が増えており、滞在者が楽しめる体験プログラムなどの開発に力を入れている地域も多くなりました。

そこで、海に囲まれ、山や川など、自然が豊富な離島において、アクティビティやリゾートといった体験旅行をどのくらい経験しているかなどのニーズや、今後の体験創出の可能性といったシーズを把握することで計画の基本的な考え方を設定するため、島旅の経験がある女性を対象にアンケートを実施しました。

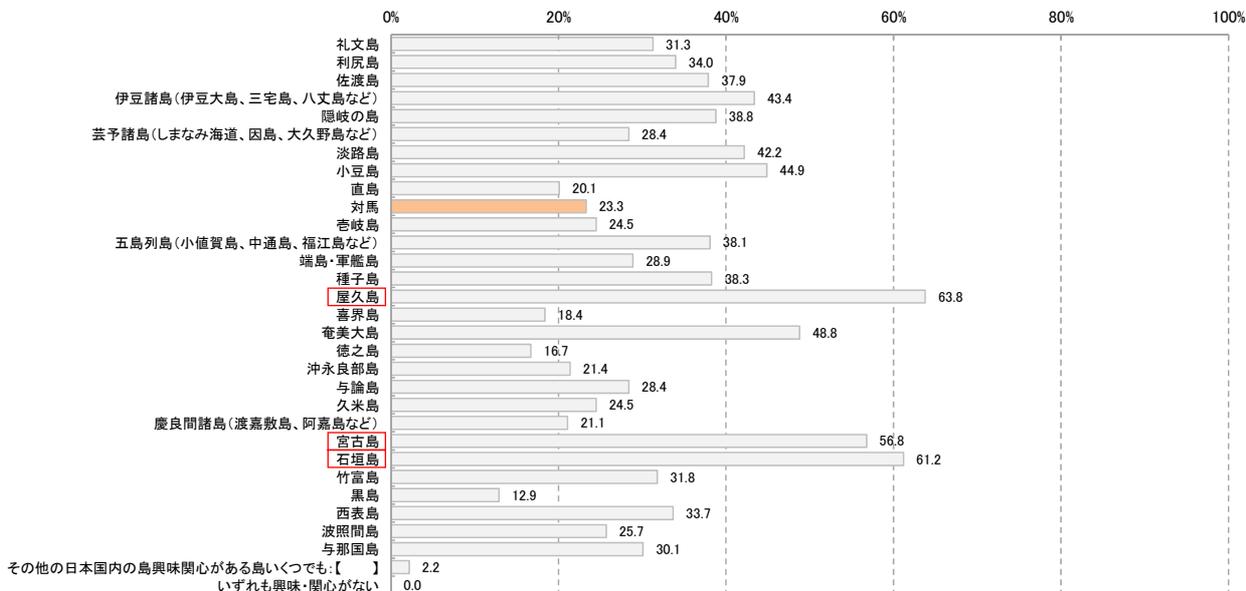
(2) 調査方法の概要

対象者	島旅の経験がある女性
サンプル数	412人(うち、3年以内に対馬に行ったことがある人103人)
対象年齢	15歳以上(中学生を除く)
対象地域	全国
アンケートの概要	
1) 興味・関心のある島	・旅行先として興味のある島について
2) アクティビティ体験の経験とニーズ	・アクティビティ体験の有無について ・体験してみたいアクティビティについて
3) リゾート体験の経験とニーズ	・リゾート体験の有無について ・体験してみたいリゾートについて
4) 島旅での宿泊	・島旅で利用したい宿泊施設の種類について
5) 対馬のイメージ	・対馬の良いイメージ・良くないイメージについて
6) 中対馬の地域資源の認知度	・来訪経験の有無による中対馬の主要な地域資源の認知度について

(3) 調査結果の概要(抜粋)

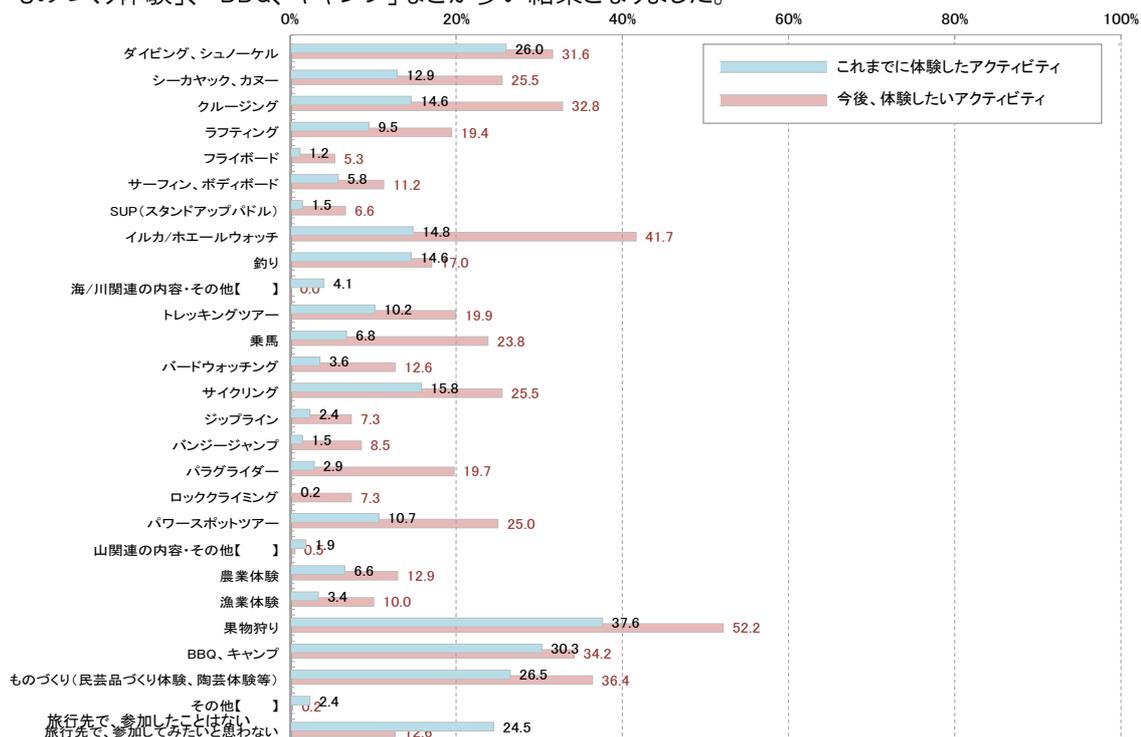
1) 興味・関心のある島

旅行先として興味・関心のある島については、「屋久島」が最も興味・関心が高く、次いで「石垣島」、「宮古島」という結果となりました。なお、対馬はすべての島の中で興味・関心が低く、県内の他の離島と比べても最も低いという結果であり、今後の魅力創出と情報発信が重要であると考えられます。



2) アクティビティ体験の経験とニーズ

これまでの旅行先でのアクティビティ体験については、「果物狩り」が最も多く、次いで「BBQ、キャンプ」、「ものづくり体験」、「ダイビング、シュノーケル」の順に多い結果となりました。また、今後、体験したいアクティビティについて質問したところ、これまでの体験と同じく「果物狩り」が最も多く、次いで「イルカ/ホエールウォッチ」、「ものづくり体験」、「BBQ、キャンプ」などが多い結果となりました。

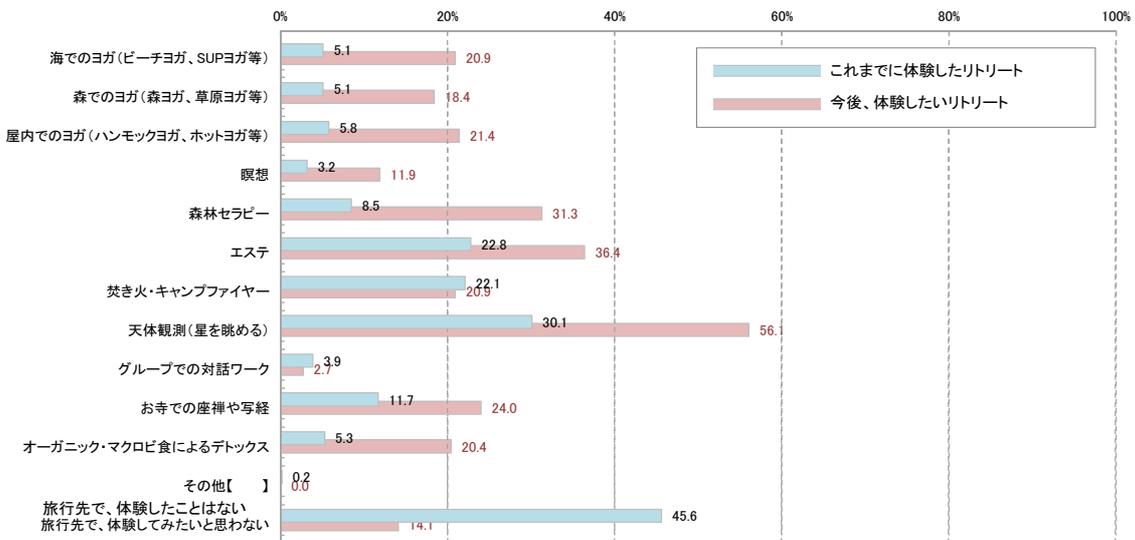


3) リトリート体験の経験とニーズ

これまでの旅行先でのリトリート体験については、「体験したことがない」が最も多く、次いで「天体観測(星を眺める)」、「エステ」、「焚き火・キャンプファイヤー」の順に多い結果となりました。

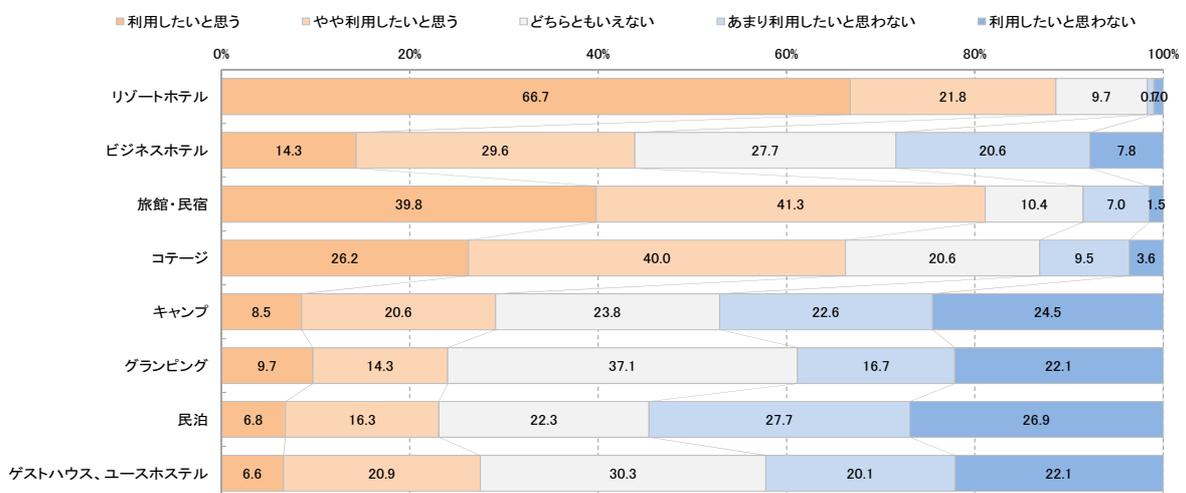
また、今後、体験したいリトリートについて質問したところ、「天体観測(星を眺める)」が最も多く、次いで「エステ」、「森林セラピー」などが多い結果となりました。

なお、これまでの体験と今後の体験意向を比べてみると、「ヨガ(海、森、屋内を問わず)」や「森林セラピー」、「オーガニック・マクロビ食によるデトックス」などが、「これまで体験していないが、今後体験してみたい」リトリートとして注目されていることが分かります。



4) 島旅での宿泊

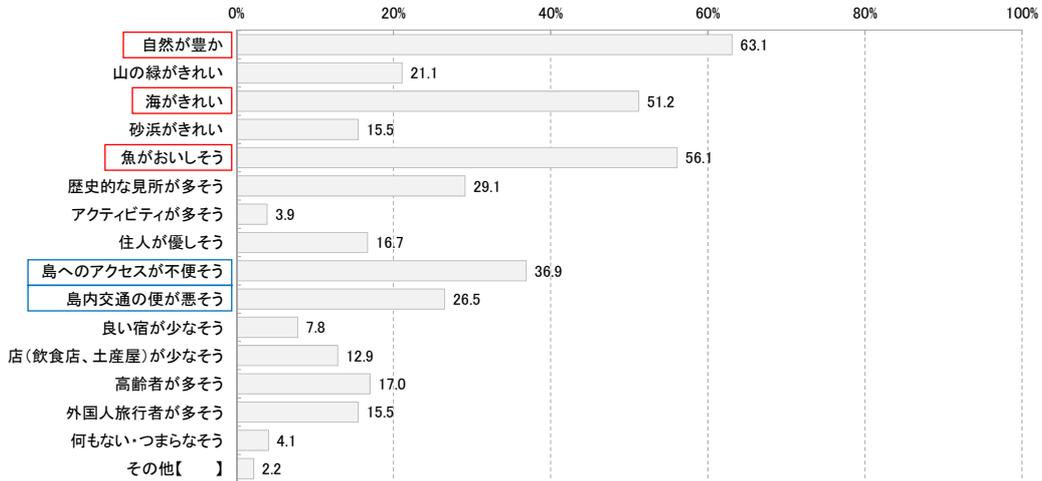
今後、島旅に行く際に利用したい宿泊施設については、「リゾートホテル」と「旅館・民宿」に人気が集まっていますが、「コテージ」を「利用したいと思う」もしくは「やや利用したいと思う」の合計が 66.2%と多くっており、「利用したことはないが機会があれば利用したい」という旅行者が多いことを示しています。



5) 対馬のイメージ

対馬のイメージ(対馬をよく知らない人には、対馬と聞いたときの印象)について質問したところ、良いイメージとしては、「自然が豊か」が最も多く、次いで「魚がおいしそう」、「海がきれい」という結果となりました。

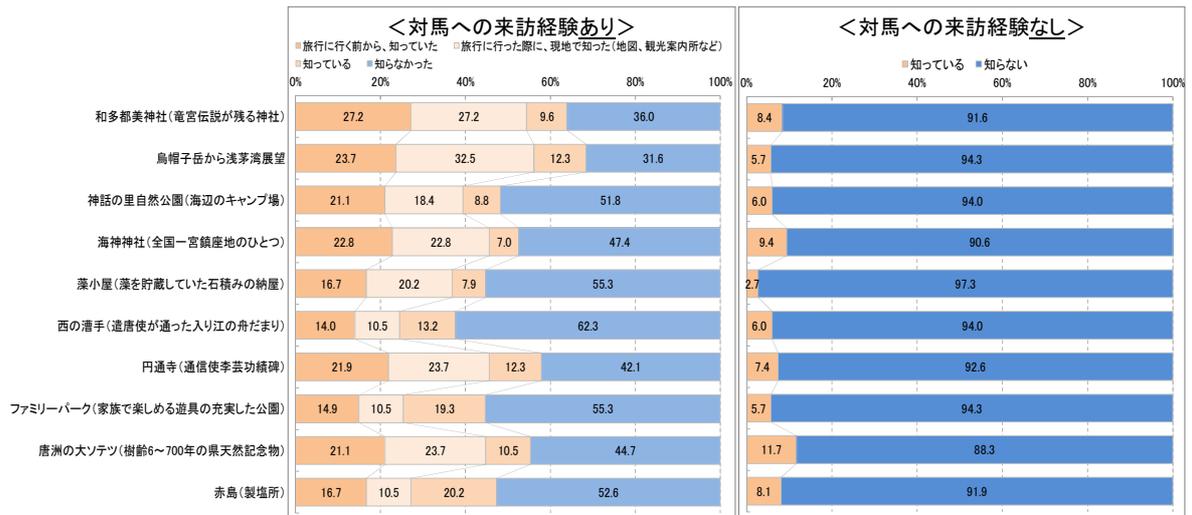
また、良くないイメージとしては、「島へのアクセスが不便そう」が最も多く、次いで「島内交通の便が悪そう」という結果となり、島内外ともに交通事情がネックになっていることが伺えます。



6) 中対馬の地域資源の認知度

対馬への来訪経験がある人を対象とした場合は、「烏帽子岳からの浅茅湾展望」が最も認知度が高く、次いで「和多都美神社」、「円通寺」という結果となりました。

また、対馬への来訪経験がない人を対象とした場合は、各観光資源とも概ね 10%以下の認知度に留まり、ほとんど知られていない状況が浮き彫りになりました。



※インターネットアンケート調査結果の詳細については、資料編(P.84~92)をご覧ください。

2 基本方針

中対馬をとりまく環境と現状から浮かび上がる課題を踏まえ、
未来づくりに向けた新たな価値創造のための基本方針を設定

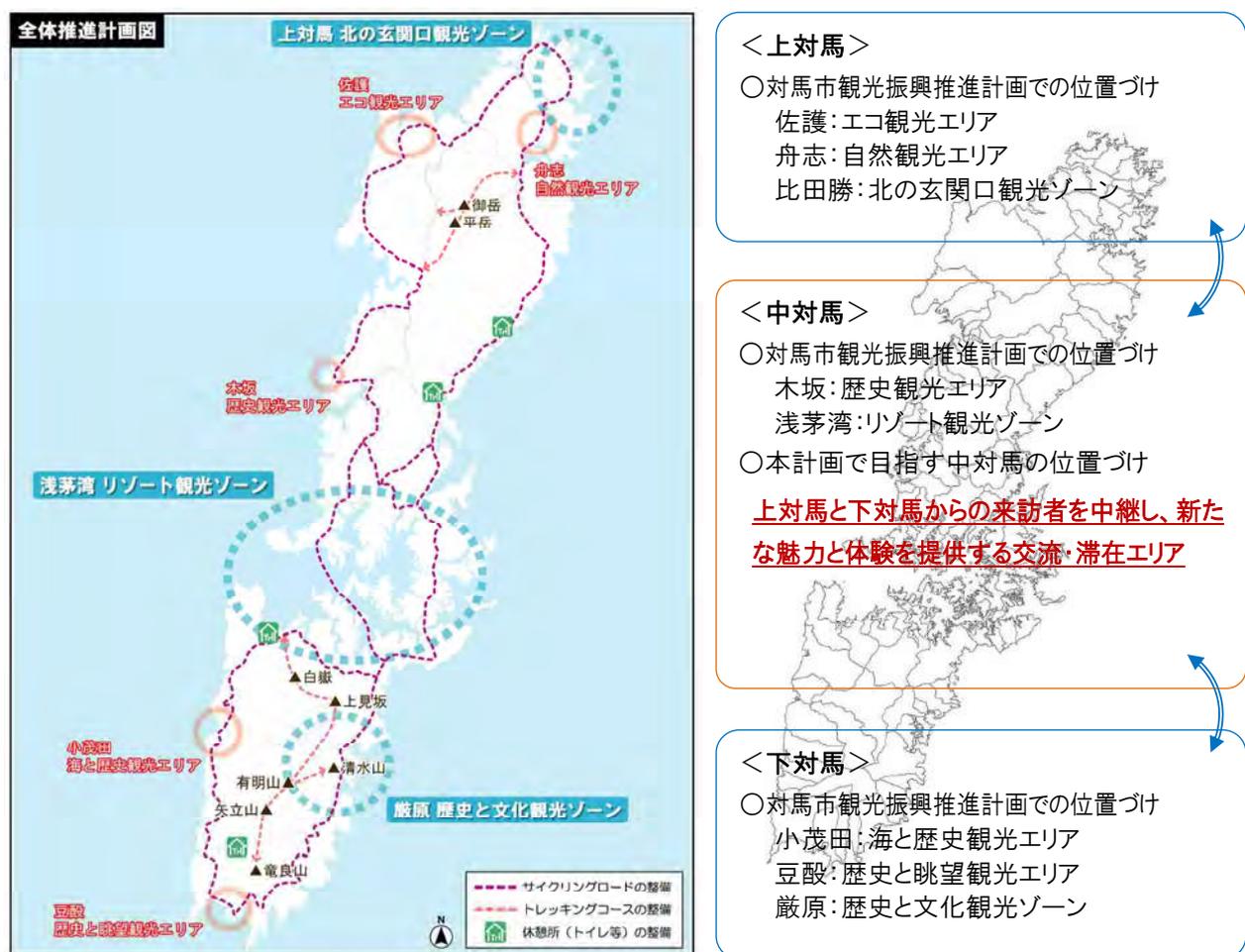
2-1 中対馬の課題の整理

2-1-1 中対馬の位置づけ

「対馬市観光振興推進計画」において、対馬全体の観光推進に向けて5つのエリアと3つのゾーンを設定しています。

そのうち、中対馬においては、木坂地区が歴史観光エリア、浅茅湾一帯がリゾート観光ゾーン(烏帽子岳一帯、小船越周辺、真珠養殖所の観光拠点化)と位置づけています。

この位置づけを踏まえながら、中対馬の課題を相対化し、対馬全体の中で中対馬に期待される役割を位置づけました。



出典:対馬市観光振興推進計画(平成29年3月)

2-1-2 対馬をとりまく環境の整理

上位・関連計画や現況特性、ヒアリング調査の結果に基づき、中対馬をとりまく環境を整理しました。

①中対馬の現況特性

<現 状>

【位置・交通・土地利用】

- 厳原港からは15～35km圏内、比田勝港からは20～40km圏内となっており、客船が就航する港がなく、上・下対馬の通過点となっている。
- ほとんどが森林で、国道382号や県道などの沿道と海岸沿いの入り江付近に、田んぼや農用地、建物用地が点在している。
- 厳原港や比田勝港、対馬空港から中対馬への公共交通機関は、路線バスとなり、路線バス以外はレンタカーでのアクセスとなる。

【人口動向】

- 市全域で見ると、少子高齢化が急速に進展している。
- 地区別人口をみると、平成27年は厳原町(11,609人)、美津島町(7,528人)、上対馬町(3,821人)、豊玉町(3,384人)、上県町(3,102人)、峰町(2,013人)の順となっており、中対馬に属する豊玉町や峰町は市全域から見ても人口が少ない地区となっている。
- 峰町、上対馬町、上県町といった北部地域の人口減少率が南部に比べ高い。

【産業】

- 産業別人口は、第3次産業、第1次産業、第2次産業の順で割合が高くなっており、第1次産業については、上対馬、下対馬よりも、従事者数が多い。
- 長崎県が管理する港湾が4箇所、対馬市が管理する漁港が20箇所あり、いか釣りやマグロの養殖が盛んである。
- 漁業は中対馬の基幹産業であるが、人口減少率が他の産業と比較して最も高く、平成27年(937人)は平成12年(1,755人)の約半数となっている。
- 対馬の産品を首都圏等で販路拡大するために、対馬地域商社が設立されている。
- 宿泊施設が8軒あるが、上対馬、下対馬と比較すると少ない。
- 飲食店やお土産商品、特産品が少ない。

【観光・地域資源・その他】

- 本市への観光客予測では、韓国人は増加しているが、日本人は減少傾向である。
- 観光消費額は増加しているが、韓国人一人あたりでは減少傾向にある。
- 日本人観光客の多様化しているニーズにあった宿泊施設が少ない。
- 浅茅湾、海神社、和多都美神社、烏帽子岳展望所、青海の里など、美しい自然を鑑賞できる観光スポットがあるほか、渡海船によるクルージングやシーカヤック、サイクリング、キャンプなどのアクティビティを楽しめる。
- 温泉は峰町に1箇所のみ(ほたるの湯)。
- 対馬市ファミリーパークや神話の里は、休日は家族連れで賑わっており、総合運動公園(豊玉町・峰町)やプールなどのスポーツ施設が点在している。
- 春から秋にかけて音楽イベントや神社での祭りなどが開催されている。
- 小学校が7校、中学校が4校、高校が1校あるが、生徒数は年々減少し、廃校となった小学校8校のうち、3校は校舎が撤去され、5校は既存のままの状態となっている。

<問題点>

【位置・交通・土地利用】

- 空港や港からは公共バスかレンタカーでの移動となり、運転ができない個人旅行客等には不便な環境にある。
- 海岸沿いでは景色を楽しむことができるが、山林に入ると、同じような景色が続く。

【人口動向】

- 人口減少や高齢化により、地域活動や産業等の後継者不足に陥っている。

【産業】

- 対馬市のなかでは第1次産業人口の割合が高く、漁業も盛んであるが、地域活性化に産業を活かきれていない。
- 飲食店や宿泊施設が少ないため、来訪者の滞在機会を逸している。

【観光・地域資源・その他】

- 韓国人観光客は増加しているものの、国際間の社会情勢に影響されることもあり、韓国人頼りの観光推進は危険である。
- 歴史深い観光地やアクティビティを楽しめる場所、イベントなどはあるが、交流・滞在につながっていない。
- 春から秋にかけてのイベントはあるが、冬のイベントがほとんどない。
- 既存のままの状態となっている廃校が多く、利活用されていない。



②上位・関連計画にみる中对馬の位置づけ・方向性

【中对馬の位置づけ】

○対馬市観光振興推進計画(H29.3)では“浅茅湾リゾート観光ゾーン”として位置づけており、烏帽子岳一帯や小船越周辺の観光拠点化、美津島町濃部周辺の真珠ツーリズム拠点化などが示されている。また、対馬市キャンプ場施設等整備計画(H28.9)では神話の里キャンプ場における整備方針が設定されている(この2つ以外には中对馬を直接的に位置づけている上位・関連計画はない)。

【産業、観光、交流等の方向性】

- 長崎県総合計画(H28.3)では、地域資源を活用した農山村地域の活性化や、地域に密着した産業の担い手の確保・育成などの産業面の方向性のほか、観光客の受入体制整備の促進や移住施策の強化など観光・交流面の方向性が示されている。
- 長崎県観光振興基本計画(H28.3)では、国境の島ならではの地域資源を活かした観光メニューの構築や情報発信の強化、交通網や宿泊施設等の整備やおもてなしの向上など、対馬地域の観光振興に関する施策の方向性が示されている。
- 第2次対馬市総合計画(H28.3)では島内での供給システムの構築など地域経済が潤い続けるための施策、対馬市観光振興推進計画(H29.3)では観光客の増加や観光消費額の増加を図るための戦略、対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略(H27.12)では対馬ならではの雇用・なりわいの創生や島の魅力を活かした交流・移住・定住の促進などの戦略、対馬市過疎地域自立促進計画(H29.3)では、農林水産業など各分野における産業の振興に関する具体的な施策が示されている。

【国の動向(関連法制度)】

○有人国境離島地域の保全及び特定有人国境離島地域に係る地域社会の維持に関する基本的な方針(H29.4)では、「交流・対流・循環」を生み出すために、「人の往来・物の移動に係る条件不利性の緩和」、「交流促進のためのきっかけづくり」、「島の魅力の再発見と島での人づくりの推進」を施策の方向として位置づけている。



③ヒアリング調査

【インターネットアンケート調査】

- 対馬は旅行先として興味・関心を持たれておらず、県内の他の離島と比べても関心が低い。
- 自然が豊かで海がきれい、魚がおいしそうという良いイメージを持たれている。
- 島へのアクセスや島内での交通の便が悪そうという悪いイメージを持たれている。
- 対馬に来たことがない人は中对馬の観光資源をほとんど知らない。
- 中对馬の観光地に来訪した人の満足度は高いが、再訪意向があまり高くない。

【地域住民ヒアリング】

- 耕作放棄地が多い。
- シカ、イノシシが多い。
- 保育士や介護師が不足しているため、専門学校等を誘致するとよい。
- 漁業の担い手不足の解消のため、水産高校をつくとよい。
- 男女の出会いの場がない。
- 若い人が働ける環境が少ない。
- 魚の島内価格が高い。
- 結婚式場がない。
- 観光客に対する航空運賃が高い。
- 地元の人にしか知られていない、よい場所などもたくさんある。

【事業者ヒアリング】

- 海にふれられる場所が少ない。
- 農業体験や周遊プランなどを準備している民泊施設もある。
- 体験民泊を増やしたいが、民泊をしたいと思っている人を知らない。
- 中对馬は観光する場所があっても移動に時間がかかる。
- 農家の人手不足が問題である。
- 働いていない高齢者に活躍してもらえる仕組みをつくるべきである。
- 女性をターゲットとするならば、宿泊施設と食の充実を図るべきである。

※地域住民及び事業者ヒアリングの詳細については、資料編 P.93～100 をご覧ください。

中对馬を取り巻く環境

- 豊かな自然を活かしきれず、情報発信もできていないため、認知されていない傾向がみられる。
- 魅力的な地域資源・観光資源に囲まれているが、交通の便が悪いことや飲食店、宿泊施設不足などにより、来訪者の滞在機会を逸している。
- 人口減少や高齢化により、地域活動や産業等の後継者不足に陥っていることに加え、基幹産業である漁業の人口減少率が著しい。また、学校等が少ないため、若者が定着する機会を十分に与えることができていない。
- 観光客の受入体制整備の促進や移住促進、島内での供給システムの構築など、観光や産業の振興に関する法制度・施策は整っている。

2-1-3 中対馬の課題

中対馬をとりまく環境をもとに、中対馬の課題を整理するために、内部環境における強み(Strengths)・弱み(Weaknesses)、外部環境における機会(Opportunities)・脅威(Threats)に分類し抜粋、整理してSWOT分析※を行いました。

※「SWOT分析」とは、対象についての重要な内外環境・要因を特定し、それらの組合せによって解決すべき課題や目指すべき方向を明確化するための分析手法です。

特に、対象をとりまく環境や要因が非常に多岐に渡り、かつ対象に内在する要因だけではなく、外的要因を含めた包括的な視点が求められる地域づくりなどで有効な手法とされています。

■内部環境・外部環境におけるプラス要因とマイナス要因

	【プラス要因】	【マイナス要因】
【内部環境】	強み(Strengths) <ul style="list-style-type: none"> ○上・下対馬からの通過点になりがちであるが、両方から観光客の来訪機会があるとも言える。 ○ほとんどが山林であるが、手つかずの豊かな自然が多く残り、動植物・昆虫など、多様な生態系が見られる。 ○対馬市のなかでも第1次産業人口の割合が高く、漁業が盛んである。 ○中対馬(豊玉町東加藤)に対馬地域商社が設立され、産業振興が期待される。 ○歴史深い観光地や美しい海や山、キャンプ場や運動公園など、屋外での活動場所が豊富である。 ○浅茅湾を周遊できる。 ○浅茅湾周遊コースの発着所がある場所は、市街地とのアクセスが良い。(仁位) ○自然が豊かで海がきれい、魚がおいしそうという良いイメージを持たれている。 ○中対馬の観光地に来訪した人の満足度は比較的高い。 	弱み(Weaknesses) <ul style="list-style-type: none"> ○拠点的な施設がなく上・下対馬からの通過点になりがちで滞在機会を逸している。 ○公共交通機関はバスのみとなり、その他の交通手段はレンタカーに限られる。 ○相対的な魅力不足で若者が都市部に流出し、主に農林水産業の後継者が不足している。 ○人口減少抑制に必要な不可欠な若年層及び女性のニーズにあった雇用機会が限られている。 ○飲食店や宿泊施設が少ないため、来訪者の滞在機会を逸していることに加え、来訪者がお金を使う場所が少ないなど、受入体制が不十分。 ○温泉が1箇所のみである。 ○春から秋に比べ、冬はイベントがほとんどない。 ○既存のままの状態となっている廃校が多い。 ○お土産商品や特産品が少なく、PR不足。 ○対馬は旅行先として興味・関心を持たれておらず、県内の他の離島と比べても関心が低い。 ○島へのアクセスや島内での交通の便が悪そうという悪いイメージを持たれている。 ○観光地の満足度は高いが、再訪意向があまり高くない。
	【外部環境】	機会(Opportunities) <ul style="list-style-type: none"> ○旅行等における「女性」に注目したマーケティングやビジネスが展開されている。 ○視覚より五感を重視した体験型旅行が好まれるなど、旅行者の消費動向が変化している。 ○近年、全国的にアウトドア人口が増加傾向にある。 ○グランピングや民泊など、新たな宿泊スタイルの人氣が上昇している。 ○家族やグループをベースとする個人旅行が増加傾向にある。 ○SNSを利用した情報発信・共有の機会が活発化している。 ○対馬を訪れる韓国人旅行者が急増している。 ○有人国境離島法が施行され、離島振興に向けた支援策等が活発化している。 ○対馬産の養殖マグロが全国で高い評価を受けつつある。

※内外環境・要因の分析の考え方

	プラス要因	マイナス要因
環 境 内 部	強み Strengths	弱み Weaknesses
環 境 外 部	機会 Opportunities	脅威 Threats

組合
せ

分析の視点	
①機会(O)×強み(S)	機会を活かし、強みを強化する
②強み(S)×脅威(T)	強みを活かし、脅威による悪影響を克服する
③機会(O)×弱み(W)	機会を活かし、弱みを克服する
④弱み(W)×脅威(T)	弱みと脅威から最悪のシナリオを回避する

■SWOT分析による中対馬における課題

課題①
／機会×強み

「機会」を活かし

- 視覚より五感を重視した体験型旅行が好まれる
- 全国的にアウトドア人口が増加傾向

「強み」を強化する

- 上・下対馬の両方から来訪機会がある
- 手つかずの豊かな自然が多く残る
- 自然が豊かで海がきれいというイメージ



五感をフル活用でき、これまでにない新たな集客性のある環境を整備する必要がある

中対馬においては、手つかずの豊かな自然を活かして五感をフル活用できるアクティビティな環境をつくるためのポテンシャルを備えていることから、体験型旅行を嗜好する旅行者の消費動向変化や、全国的なアウトドア人口の増加などの契機を活かし、これまでにない新たな集客性のある環境を整備する必要があります。

課題②
／強み×脅威

「強み」を活かし

- 手つかずの豊かな自然が多く残る
- 屋外での活動場所が豊富

「脅威」を回避する

- 「見る観光」が減少傾向
- 全国各地で観光誘致の地域間競争が激化
- 他の離島と来訪のきっかけが競合



自然豊かな環境を活かしつつ、「見る観光」に頼らない新たな環境を整備する必要がある

離島の多くは「自然」を売りにしており、新たな集客を得るためには、他島との差別化を図ることが重要になることから、自然豊かな環境を活かしつつ、テーマ性のある場(心の癒しなど)を提供するなど、自然や観光名所を「見る」だけの観光に頼らない新たな環境を整備する必要があります。

課題③
／機会×弱み

「機会」を活かし

- グランピングや民泊など、新たな宿泊スタイルの人气が上昇
- 個人旅行(家族やグループ)が増加傾向

「弱み」を克服する

- 飲食店や宿泊施設が少ない
- 来訪者の受入体制が不十分
- 中対馬への再訪意向があまり高くない



多様な宿泊スタイルを取り入れ、受入体制の充実と再訪意向を高める環境を整備する必要がある

グランピングや民泊など、新たな宿泊スタイルの人气が上昇していることに加え、家族やグループをベースとする個人旅行が増加傾向にあることから、団体旅行で利用するような従来のホテルとは違った多様な宿泊スタイルを取り入れるなど、「また訪れたい」と思わせることができる環境を整備する必要があります。

課題④
／弱み×脅威

「弱み」を克服し

- 農林水産業の後継者不足
- 若年層及び女性のニーズにあった雇用機会が限られている

「脅威」を回避する

- 国内旅行消費額は全国的に減少傾向
- 韓国人の観光消費額が少ない



新たな産業を創出し、交流・対流・循環をうみだす環境を整備する必要がある

人口減少や産業の衰退が著しくなっていることから、農林水産業や商工業等を組み合わせ、新たな産業を創出することにより、地元産品や観光商品等の魅力アップによる観光消費額の増加や雇用の創出による人口減少の抑制・移住の促進など、島内消費の拡大や人の交流の活発化を目指し、交流・対流・循環をうみだす環境を整備する必要があります。

2-2 新たな価値創造のための基本方針

中対馬における課題を踏まえ、未来づくりに向けての基本方針を以下のとおり設定しました。

■新たな価値創造のための基本方針

<中対馬における課題>

強み(S)×機会(O)

<機会を活かし、強みを強化する>
五感をフル活用でき、これまでにない新たな集客性のある環境を整備する必要があります

強み(S)×脅威(T)

<強みを活かし、脅威による悪影響を克服する>
自然豊かな環境を活かしつつ、「見る観光」に頼らない新たな環境を整備する必要があります

弱み(W)×機会(O)

<機会を活かし、弱みを克服する>
多様な宿泊スタイルを取り入れ、受入体制の充実と再訪意向を高める環境を整備する必要があります

弱み(W)×脅威(T)

<弱みと脅威から最悪のシナリオを回避する>
新たな産業を創出し、交流・対流・循環をうみだす環境を整備する必要があります

<基本方針>

国内外からの集客の可能性を活かした

仕掛けづくりを目指す

○上・下対馬の両方から来訪機会があることや、視覚より五感を重視する近年の旅行者の消費傾向を活かし、海や山の豊かで多様な自然の活動フィールドの整備と体験メニューの造成・仕掛けづくりを目指します。

基本方針①

日々の雑音を忘れて自然と向き合う

環境づくりを目指す

○手つかずの豊かな自然を活かし、史跡等の観光施設だけに頼らないという他の地域や島では得られない“中対馬ならではの”自然と向き合える環境づくりを目指します。

基本方針②

多様かつ新しい宿泊スタイルの提供を目指す

○家族やグループをベースとした個人旅行の増加傾向を活かし、民泊やコテージ、野外泊(オートキャンプ、グランピング等)といった、小規模だが多様なかつ新たな受入れ機会の創出を目指します。

基本方針③

小さな産業を組み合わせる新たな創業を目指す

○少子高齢化の進行と若者の流出、主要産業である農林水産業の後継者不足の問題に対応するため、複数の産業にまたがって持続的に働ける場所や仕組み、環境の整備を目指します。

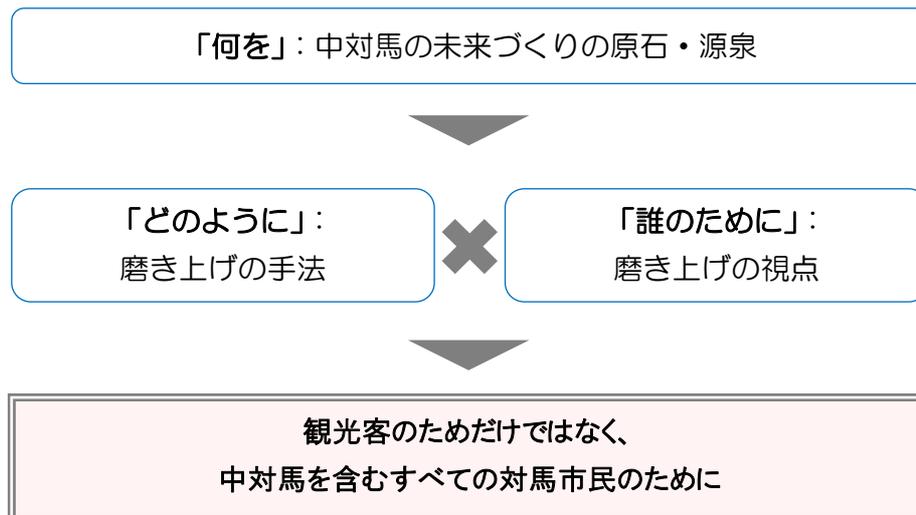
基本方針④

2-3 未来づくりの基本的な考え方

中対馬の未来づくりを進めていく上では、SWOT分析の結果と目指すべき4つの基本方針を踏まえて明確なコンセプトとターゲットの設定が不可欠です。

中対馬ならではの魅力を創出するためのコンセプトとターゲットを設定するため、以下の観点に着目して未来づくりの全体像を描くものとします。

■ 未来づくりへの基本的な考え方



2-4 未来づくりの展望

4つの基本方針と基本的な考え方を踏まえ、中対馬の未来づくりへの展望としてコンセプトとターゲットを設定し、未来像を次頁に整理しました。

■中対馬の未来づくりの展望

コンセプト

中対馬を舞台とした“つしまリトリート&アクティビティ”の創造

- 中対馬ならではの価値・魅力を創造するためには、大規模な開発等に頼らず、豊かで多様な自然環境を活かした整備と仕掛けづくりが重要となります。
- 来訪者が満喫し、また訪れたいと思わせるような仕掛けづくりを図るため、自然環境を活かした活動の場「アクティビティ」と癒しの場「リトリート」を軸とし、「見る観光」から「体験する観光」へ転換することで様々な産業の振興を目指す中対馬の未来づくりを推進します。
- リトリート&アクティビティという仕掛けと整備によって、一過性のイベントや短期的な集客ではなく、地域の活性化を見据えた長期的な取り組みを目指します。

ターゲット

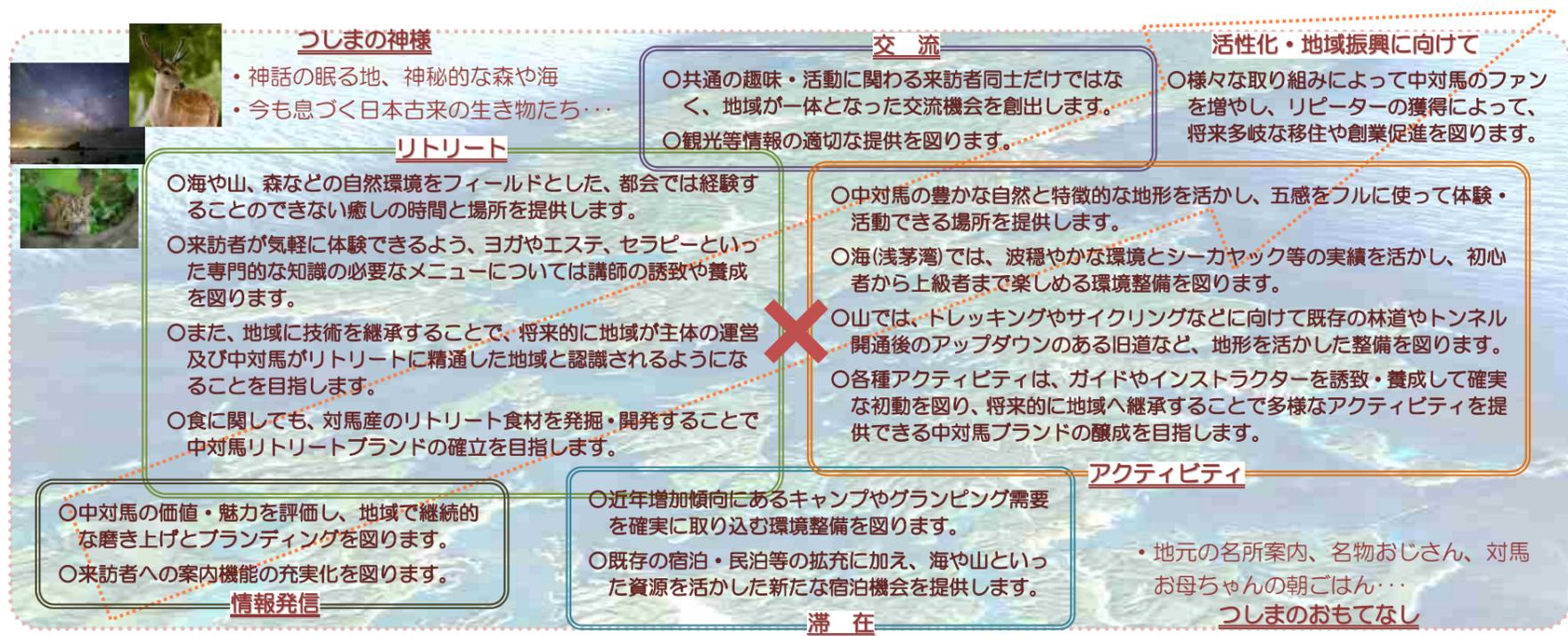
世界のすべての女子

- 中対馬の未来づくりを効果的に推進する上で、来訪のきっかけづくりと将来的な来訪の好循環をつくることを目指し、「女子」を基本ターゲットと設定します。
- 女子をターゲットに絞ることで、取り掛かるべき整備の方向性を発散させず、コンセプトに即した中対馬ならではの未来づくりを目指します。

未来像

中対馬の目指す未来の姿のイメージ

○コンセプトとターゲットを踏まえ、活性化・地域振興を見据えた中対馬の未来の姿を目指すための5つのテーマを設定し、未来像を整理しました。



実現化に向けたプロセス

「どのように」：磨き上げの手法

評価

中対馬の未来づくりの原石・源泉である様々な地域資源を一度棚卸しし、評価します。

評価にあたっては、現状の価値・魅力に加えて問題点を整理し、それらを地域で共有します。



■評価のための価値・魅力MAP

組合せ

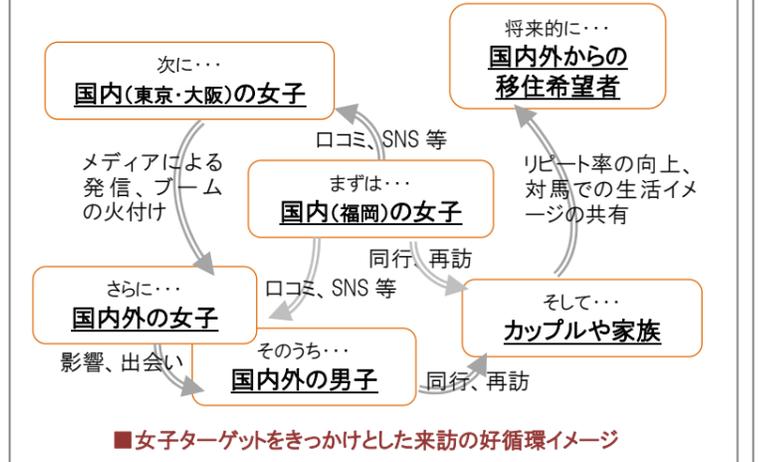
地域資源の価値・魅力や立地条件を組み合わせ、上対馬・下対馬にない中対馬の価値・魅力の創出を図ります。

組合せにあたっては、来訪客や地域住民が参画できる未来づくりのストーリーを意識しながら設定します。

「誰のために」：磨き上げの視点

視点

きっかけとなるターゲットを明確化し、そこから派生・連鎖する持続的・将来的な来訪の好循環とピーターやファンの獲得、更には移住希望者の増加を目指します。



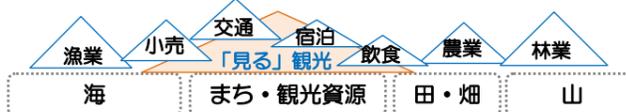
■女子ターゲットをきっかけとした来訪の好循環イメージ

産業・雇用創出の仕掛け

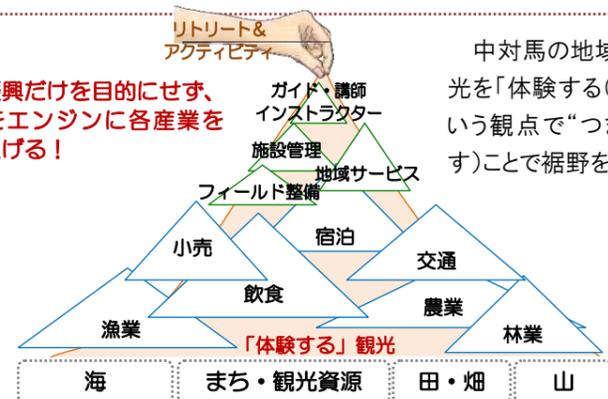
- リトリート&アクティビティのコンセプトは、それぞれを直接実施する事業者だけが稼ぎ、儲けることができる仕組みではありません。
- リトリート&アクティビティを軸として、地域特性等を踏まえた産業間の連携や波及効果の創出、場合によっては直接的な関連がない事業者も本業のスキマ時間に参画できるような協働の仕掛け、また、地域住民が一体となったおもてなし環境づくりなど、中対馬全域を舞台として取り組みます。
- リトリート&アクティビティの創造により、従来の「見る」観光から「体験する」観光へのシフトによって観光産業の裾野を広げ、観光をひとつのきっかけとした各産業の連携によって新たな産業と雇用の創出を目指します。

従来の「見る」観光を主体とした産業構造は、一部の産業・事業者しか直接的な利益の恩恵を受けることができません。

さらに、景観眺望や開放された史跡などの「見る」観光そのものは直接的に利益を生みづらく、産業として見ると投資対効果が分かりづらい構造となっています。



観光振興だけを目的にせず、観光をエンジンに各産業を盛り上げる！



中対馬の地域のポテンシャルを活かし、観光を「体験する(リトリート&アクティビティ)」という観点で「つまみ上げる」(魅力を引き出す)ことで裾野を広げます。

それによって関連する産業のポテンシャルを引き出し、関連性の発見による新たな産業・雇用の創出を図ります。

観光客のためだけでなく、中対馬を含むすべての対馬市民のために